

体育分野における授業の効果的な指導法 指導形態や場の工夫

I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、体育分野における授業の効果的な指導法に視点をあて、個々の身体能力に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力や言語活動を育成すること。練習内容の工夫改善をすることにより生徒達により理解しやすく、基礎基本の習得をすることができるか。与えられた環境の中、より有効な場を提供することもより質の高い授業の展開が可能と考える。授業実践や研究会を通し、教師自身もより高い実践力を高める必要があると考え「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。本年度も「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて本年度も継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) 先進校の実践（資料）や各校での実践を通して情報交換を行い、研究していく。

2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。
〔11月「球技」(バドミントンネット型) 塩山中学校 飯島春菜教諭〕
〔2月「球技」(バレーボールネット型) 山梨北中学校 大澤 祐子教諭〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

3 授業実践：1

- (1) 単元名 「球技」(バドミントンネット型) 中学2年生
- (2) 授業者 塩山中学校 飯島 春菜教諭
- (3) 指導構想

「バドミントンの楽しさを味わい、確かな技能・知識の定着と

向上を目指す学習指導法の実践的研究」

(4) 学習の道すじの工夫

- ・基本打球動作やサービス技術を学習したあとでその技能の習得の程度に応じて試合を計画することが効果的である。

- ・現時点での力量に応じて運動を楽しみ、深めていくように学習指導を進めていく
- ・特性に応じた学習のねらいによる学習過程を構成する。

(5) 場の設定の工夫

- ・自分の能力に応じた課題をもたせ、技術の系統性や難易度、技術の要点を示した学習資料やビデオ教材を活用するなど、徒自ら課題を解決していくための場の工夫をしていく。適正な人数や位置取りに注意することにより安全面にも配慮する。

授業実践：2

(1) 単元名 球技「バレーボール」(中学2年生)

(2) 授業者 塩山中学校 飯島春菜教諭

(3) 授業構想

- ・基本的な技能や仲間との連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能を習得し、ゲームが展開できるようにする。
- ・自ら考え、自ら学び、課題解決的な学習を推進する。
- ・互いに観察し、助言できるようにする。(言語活動)

(4) 指導形態の工夫

- ・段階を踏んで練習に取り組ませていく。はじめの段階では基本的技能や仲間と連携した動きを中心に行い、それを発展させていく中で、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
- ・個人練習－ペア練習－班練習－ゲームという授業形態をとり、個人やチームの課題解決のための練習スペースをつくり取り組ませる。バレーボール部員の活用の工夫。

(5) 場の設定の工夫

- ・ソフトバレーボールコートでの学習や軽量ボールの使用により、練習に取り組むやすい環境やボールへの恐怖心を和らげ積極的なプレーができるようにする。
- ・サービス位置を前にしたり、返球回数を多くするなど、ルールを工夫する。

III 成果と課題

効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」に視点をあて研究を行ってきたが、学校の規模に応じた独自の指導方法や教材の使用、施設の利用など、特色ある授業形態を学ぶことができ、とても充実した研究になった。各校がそれぞれの場の工夫と、さらに学習資料を有効的に活用することで生徒達に基礎基本の定着や、題解決へ向けての手だてや、運動に積極的に取り組む姿勢が学べたと考える。

今後は、学習過程での手段でもある言語活動にも視野を広げ、体育の授業を通しての人間関係作りやコミュニケーション能力の育成が効率よくできる授業形態や場の工夫について授業展開をしていきたい。

〔部長 平山 剛〕